



時事評論家 増田俊男

トランプのウクライナ戦争の本音と建て前

人類の歴史は戦争の歴史であり、戦争は強い者が弱い者の富を奪うための手段である。

そして人類が希求する平和は次なる戦争の準備である。

民主主義や専制主義は、時代を制する両陣営の御用哲学に過ぎない。

民主国家は言論、集会、信教の自由を武器に先制体制崩壊を求め、専制国家は秩序と効率で自由主義体制を「船頭多くして船山へ上る」に追い込む。

プーチンのウクライナ侵攻の建前はウクライナの NATO 加盟阻止であるが、本音はロシア経済 5%成長を見ればわかる。

アメリカのウクライナ軍事支援の建前は民主国家ウクライナを専制国家ロシアの侵略から守る為であるが、本音はアメリカの基幹産業である軍事産業の大繁栄を見れば分かる。

トランプが「俺が大統領になったらウクライナ戦争を 48 時間で終わらせる」と言ったのは表向きであって、本当のところは、戦争長期化の主導権を握る為である。

トランプのイニシアティブによる二回にわたるトランプ・プーチン電話会談、トルコでのウクライナとロシアの代表者協議そして結果、無条件 30 日間停戦合意決裂、バチカンのローマ教皇によるプーチン・ゼレンスキー停戦合意等々、ここまで来たところでトランプは「ロシアとウクライナこそが戦争の解決策を自ら見出すべきだ」と言い自ら進めてきた停戦プロセスから身を引いた。

ローマ教皇の下でプーチンもゼレンスキーも無条件停戦合意を受け入れるが、両国の水と油の条件は融合しないので 30 日後から戦争が再開される。

30 日の初日からプーチンもゼレンスキーも戦争再開に向けての準備を怠らない。

トランプはウクライナ停戦活動を通して、プーチンは欧州の敵だがアメリカの敵ではないことを世界に見せつけた。

トランプ曰く、「停戦交渉はプーチンさんとゼレンスキーさんでどうぞ」。

停戦期間が過ぎると、「戦争もお二人でどうぞ」。

トランプは念を押す、「私は欧州と欧州の一部のウクライナの敵でもロシアの敵でもありません」と。

欧州は、ウクライナは欧州の一部という認識だからロシアは共通の敵であり、ウクライナ軍事支援増強、対ロ制裁を強化する。

アメリカにとってロシアは敵ではないから相互関税をロシアに掛けなかったし、今後は欧州と一緒に頑張って対ロ制裁も対ウクライナ軍事支援もしない。

ウクライナ戦争の長期化でロシアはロシア住民が密集しているドネツク、ルハンスク等 4 州のみならず、ウクライナの東部、南部全域を掌握するだろう。

トランプは対ロ経済制裁解除と引き換えにウクライナのロシア領とロシア国内でアメリカが資源開発を主導することこそがトランプの本音である。

嘘八百、出鱈目のトランプだが、一本筋が通っていることは確かだ。

何事にも表と裏(真実)がある。

「インターネット目からウロコの増田塾」で勉強されてはどうですか。